

作成日：2009年07月02日

改訂日：2024年05月01日

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称	フライヤースター
供給者の会社名称、住所及び電話番号	セッツ株式会社 大阪府堺市西区築港新町1-5-10 072-280-0920
想定される用途及び当該用途における使用上の注意	フライヤーの洗浄

2. 危険有害性の要約

化学品のGHS分類

健康に対する有害性	
急性毒性(経口)	区分4
急性毒性(吸入:粉じん)	区分4
皮膚腐食性/刺激性	区分1
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分1
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	区分2(神経系)、区分3(気道刺激性、麻酔作用)
環境に対する有害性	
水生環境有害性 短期(急性)	区分3

注記:記載のない場合は「区分に該当しない」、「分類できない」、「分類対象外」のいずれかである

GHSラベル要素

絵表示またはシンボル



注意喚起語

危険

危険有害性情報

飲み込むと有害
吸入すると有害
重篤な皮膚の薬傷及び眼の損傷
神経系の障害のおそれ
呼吸器への刺激のおそれ
眠気又はめまいのおそれ
水生生物に有害

注意書き

【安全対策】

粉じん/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。
取扱い後はよく手を洗い、口をすすぐこと。
この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
環境への放出を避けること。

【応急措置】

飲み込んだ場合:口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。直ちに医師に連絡すること。
皮膚(又は髪)に付着した場合:直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を流水で洗うこと。直ちに医師に連絡すること。
汚染した衣類を再使用する際は洗濯をすること。

眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。直ちに医師に連絡すること。

吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。直ちに医師に連絡すること。

ばく露またはばく露の懸念がある場合：医師に連絡すること。

【保管】

施錠して保管すること。

【廃棄】

内容物/容器を地方/国の規則に従って廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別：混合物

化学名または一般名	濃度又は 濃度範囲(%)	CAS番号	官報公示整理番号	
			化審法	安衛法
炭酸塩	非公開	497-19-8	1-164	—
珪酸塩	非公開	6834-92-0	1-508	—
界面活性剤	非公開	非公開	非公開	非公開

注記：これらの値は、製品規格値ではありません。

4. 応急措置

吸入した場合	空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。直ちに医師に連絡すること。
皮膚に付着した場合	直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を流水で洗うこと。直ちに医師に連絡すること。
眼に入った場合	汚染した衣類を再使用する際は洗濯をすること。 水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。直ちに医師に連絡すること。
飲み込んだ場合	口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。直ちに医師に連絡すること。
応急措置をする者の保護に必要な注意事項	救助者はゴム手袋と密閉ゴーグルなどの保護具を着用する。適切な換気を確保する。

5. 火災時の措置

適切な消火剤	泡、粉末、炭酸ガス、乾燥砂、霧状水を使用すること。
使ってはならない消火剤	データなし
火災時の特有の危険有害性	火災時に刺激性、腐食性もしくは有毒なガスを放出する。
特有の消火方法	安全に対処できるならば着火源を除去すること。 危険を避けられれば燃焼源の供給を止める。 消火水の下水への流入を防ぐ。 消火作業は風上から行う。
消火を行なう者の特別な保護具及び 予防措置	消火作業の際は、適切な保護具を着用する。 燃焼ガスには、一酸化炭素等の他、硫酸化合物・窒素酸化物系のガス等の有毒ガスが含まれるので、消火作業の際には、呼吸保護具を使用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び 緊急時措置	周辺を立ち入り禁止にして、関係者以外を近づけないようにして二次災害を防止する。作業の際には適切な保護具(保護手袋、保護マスク、エプロン、ゴーグル等)を着用する。
---------------------------	--

環境に対する注意事項	こぼれた場所はすべりやすいため注意する。
封じ込め及び浄化の方法及び機材	漏れ出した物質の河川、下水、排水溝、低地への流出を防止し、環境への影響を起こさないよう注意する。 スコップ、ウエス等で容器に回収する。 回収物はラベルを貼って密閉できる空容器に保管し、安全な場所に移す。
二次災害の防止策	漏出物を回収すること。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	
技術的対策	取扱い場所の近くに、洗眼および身体洗浄のための設備を設置する。排気/換気設備を設ける。
安全取扱注意事項	粉じんを吸入しないこと。 容器はその都度密栓する。 皮膚に触れないようにする。眼に入らないようにする。 保護具を着用すること。
接触回避	酸性の製品との接触を避けること。
衛生対策	取扱い後は手、汚染箇所をよく洗う。 この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
保管	
安全な保管条件	施錠して保管すること。 日光の直射を避ける。通風のよいところに保管する。
安全な容器包装材料	ステンレス、ポリエチレン、ポリプロピレン

8. ばく露防止及び保護措置

許容濃度等	許容濃度 ・ 炭酸ナトリウム 日本産業衛生学会(2020 年) 第3種粉塵 2 mg/m ³ (吸入性粉塵) 8 mg/m ³ (総粉塵)
設備対策	屋内作業の場合は、局所排気装置などにより作業者が暴露から避けられるようにする。
保護具	
呼吸用保護具	防塵用マスク
手の保護具	不浸透性の保護手袋を着用する。 化学防護手袋の材質は下記を推奨する。 (皮膚障害等防止用保護具の選定マニュアルより) より好ましい材質: ニトリルゴム、天然ゴム(ラテックス)、ブチルゴム、ネオプレンゴム、ポリビニルアルコール(PVA)、バイトン/ブチル、ネオプレン/天然ゴム、ニトリル/ネオプレンゴム、ポリ塩化ビニル/ニトリルゴム、多層フィルム(LLDPE)、多層フィルム(EVOH) 必要に応じ、取扱物質、作業内容等を保護具メーカーへ連絡し、化学防護手袋の選定の助言を受ける。
眼、顔面の保護具	保護眼鏡(ゴーグル型)
皮膚及び身体の保護具	長袖、長ズボン(化学薬品が浸透しない材質)
特別な注意事項	保護具は定期的に点検する。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	粉体
色	白色～淡褐色、淡緑色顆粒含有
臭い	原料臭
沸点又は初留点及び沸点範囲	データなし
可燃性	データなし
爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界	データなし
引火点	データなし
自然発火点	データなし
分解温度	(炭酸塩)400℃で分解して炭酸ガスを放出する。
pH	12 (1%水溶液・25℃:代表値)
動粘性率	データなし
蒸気圧	データなし
密度及び／又は相対密度	データなし
相対ガス密度	データなし
粒子特性	データなし

注記:これらの値は、製品規格値ではありません。

10. 安定性及び反応性

反応性	通常の保管条件/取扱い条件において安定である。
化学的安定性	通常の保管条件/取扱い条件において安定である。
危険有害反応可能性	酸と発熱反応し、CO2を放出する。 水溶液は強塩基性で、酸と激しく反応し、アルミニウム、亜鉛の金属に対して腐食性を示し、引火性の気体(水素)を発生する。
避けるべき条件	高湿度雰囲気
混触危険物質	酸性物質、アルミニウム、亜鉛、ハロゲン類
危険有害な分解生成物	情報なし

11. 有害性情報

急性毒性(経口)	(珪酸塩) 区分4 ラットのLD50値(1750(雄), 1152-1349(雄雌), 800, 600 mg/kg bw (SIDS (access on 12 2008), 1280mg/kg (PATTY (5th, 2001)))に基づき、区分4とした。
急性毒性(吸入)	(炭酸塩) 区分4 吸入投与 ラット LC50 2,300mg/m3/2h=1.15mg/L/4h(エアゾール)より区分4とした。
皮膚腐食性／刺激性	(珪酸塩) 区分1 ウサギを用いた4時間適用による複数の皮膚刺激性試験(OECD guideline 404; SIDS (access on 12 2008))において、皮膚の壊死(necrosis)が認められ、腐食性(corrosive)であるとの結果が得られていることと、EU分類においてC(腐食性)－R34に分類されていることから、区分1とした。
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	(炭酸塩) 区分1 ウサギを用いた試験において、「刺激性なし」～「強い刺激性」と相反する結果(SIDS (access on July 2008))が出ている。その中の一つの試験で、非洗浄眼の場合全例に角膜、虹

呼吸器感作性
皮膚感作性
生殖細胞変異原性
発がん性
生殖毒性
特定標的臓器毒性(単回ばく露)

彩、結膜(発赤、浮腫)に症状が発生し、14日の観察期間終了時も症状が残り、ドレイズの最大スコア平均(MMTS) が105と報告されている。また、別の試験の非洗浄眼では、ばく露後1時間で角膜混濁を生じ重度の影響が7日まで持続し、ドレイズの平均評点が角膜で3.8、虹彩で2であり、一部の動物で角膜パ Nusantara および円錐角膜を起こしていた。以上の結果は重篤で不可逆的眼損傷性を示しており、区分1に該当する。

データなし

データなし

データなし

データなし

データなし

(珪酸塩) 区分2(神経系)

ラットを用いた経口投与試験(用量: 538-2000mg/kg bw (males), 910-2600 mg/kg bw(females))において睡眠状態、呼吸数増加、散瞳、痙攣がみられ(SIDS (access on 12 2008))、ラットを用いた経口投与試験(用量: 1750mg/kg bw)において、無関心、よろめき歩行、呼吸困難が見られている(SIDS (access on 12 2008))。また、マウスを用いた経口投与試験(500-1920.8 mg/kg (males), 500-1372 mg/kg (females)) (SIDS (access on 12 2008))において睡眠状態が見られている。区分2のガイダンス値の用量にて睡眠状態、チアノーゼ、散瞳、呼吸麻痺、後肢の麻痺などの神経症状が認められていることから、区分2(神経系)とした

(炭酸塩) 区分3(気道刺激性、麻酔作用)

ラット、マウスおよびモルモットを用いた試験において、吸入ばく露直後に呼吸障害を起こし、呼吸困難、および喘鳴音が認められ、3-4時間後に治まった(SIDS (access on July 2008))との記載より区分3(気道刺激性)とした。一方、ラットに経口投与後の症状として運動失調、虚脱、嗜眠が記述され、生存例では5日目までに症状が消失している(SIDS (access on July 2008))。また、経皮投与後24時間の間に嗜眠が観察されたが死亡の発生はなかったと記載されている(SIDS (access on July 2008))。したがって症状には回復性があり、区分3(麻酔作用)とした。

特定標的臓器毒性(反復ばく露)
誤えん有害性

データなし

データなし

12. 環境影響情報

生態毒性

水生環境有害性 短期(急性)

(界面活性剤) 区分2

ミジンコ EC50 : 5.55 mg/L/48hr

水生環境有害性 長期(慢性)

データなし

残留性・分解性

データなし

生態蓄積性

データなし

土壌中の移動性

データなし

オゾン層への有害性

データなし

13. 廃棄上の注意

化学品、汚染容器及び包装の安全で、かつ、環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報

環境への放出を避けること。
内容物/容器を地方/国の規則に従って廃棄すること。
廃液、容器等の廃棄物は、許可を受けた産業廃棄物処理業者と委託契約をして処理する。排水処理、焼却等により発生した廃棄物についても、廃棄物の処理及び清掃に関する法律や関係する法規に従って処理を行うか、委託する。
容器、機器、装置等を洗浄した排水等は、地面や排水溝にそのまま流さない。
空容器は内容物を完全に除去してから処分する。

14. 輸送上の注意

国際規制	航空輸送はIATA及び海上輸送はIMDGの規則に従う。
国連番号	3262
品名(国連輸送名)	その他の腐食性固体、アルカリ性、無機物、他に品名が明示されていないもの
国連分類	8
容器等級	II
国内規制	陸上輸送は消防法等に定められている運送方法に従う。 海上輸送は船舶安全法に定められている運送方法に従う。 航空輸送は航空法に定められている運送方法に従う。
陸上規制情報	非該当
海上規制情報: 船舶安全法	
国連番号	3262
品名(国連輸送名)	その他の腐食性固体、アルカリ性、無機物、他に品名が明示されていないもの
国連分類	8
容器等級	II
航空規制情報: 航空法	
国連番号	3262
品名(国連輸送名)	その他の腐食性固体、アルカリ性、無機物、他に品名が明示されていないもの
国連分類	8
容器等級	II
輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策	荷崩れ防止を確実に行う。容器の破損、漏れが無いことを確かめる。
応急処置指針番号	154

15. 適用法令

該当法令の名称及びその法令に基づく規制に関する情報

化学物質排出把握管理促進法	第1種指定化学物質 ・ ドデシル硫酸ナトリウム 2.0% (管理番号 275) ・ エチレンジアミン四酢酸並びにそのカリウム塩及びナトリウム塩 2.3% (管理番号 595)
労働安全衛生法	皮膚等障害化学物質 該当 ・ ジナトリウムジオキシド(オキソ)シラン; メタけい酸ナトリウム ・ ドデシル硫酸ナトリウム (眼のみ)

毒物及び劇物取締法	・ 炭酸ナトリウム（眼のみ）
船舶安全法	非該当
航空法	腐食性物質
	腐食性物質

16. その他の情報

参考文献

- 「JIS Z 7252:2019」(日本規格協会)
- 「JIS Z 7253:2019」(日本規格協会)
- 「安全データシート」(各原料メーカー)
- 「職場のあんぜんサイト」(厚生労働省)
- 「GHS対応ガイドライン ラベル及び表示・安全データシート作成指針」(日本化学工業協会)

責任の限定について

本記載内容は、現時点で入手できる資料、情報データに基づいて作成しており、新しい知見によって改訂される事があります。また、注意事項は通常の取扱いを対象としたものであって、特殊な取扱いの場合には十分な安全対策を実施の上でご利用ください。
ここに記載したGHS分類区分の算定根拠は現時点における日本公表データです。
輸出に際しては、各国法規の確認調査が必要となります。